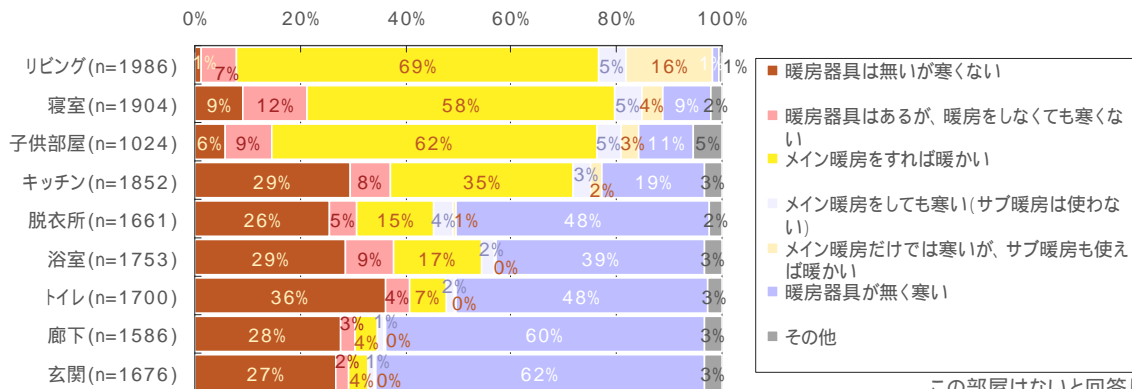


## < 参考2 > 各部屋の特徴と適した暖房器具

●使用頻度は低いが、継続的に使用しない場所が寒いと感じられている

Q11: 部屋の暖かさについて当てはまるものをお選びください。 「トイレ」において暖房便座は暖房器具に含めない。



この部屋はないと回答した方は除く

『暖房器具が無く寒い』と思っている場所は、「キッチン」(約20%)、「脱衣所」「トイレ」(ともに約50%)、「浴室」(約40%)、「廊下」「玄関」(ともに約60%)と、断続的に居る場所が上位となった。

スペースの都合により、暖房器具を置けない場所もあるが、以下に各部屋(場所)の特徴と適した暖房器具を紹介。

### 各部屋(場所)の特徴と適した暖房器具

	リビング	寝室	キッチン	洗面所 / 脱衣所 / 玄関
場所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間居る場所</li> <li>家族が集まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間居る場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的短時間</li> <li>換気扇の使用により換気量が多い</li> <li>立ち仕事で足元が冷える</li> <li>家事により動き回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的短時間</li> <li>換気扇やドアの開け閉めにより換気量が多い</li> </ul>
暖房範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>部屋全体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部屋全体 あるいは 局所的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>局所的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>局所的</li> </ul>
適した暖房器具の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>低ランニングコスト</li> <li>空気を汚さない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低ランニングコスト</li> <li>空気を汚さない</li> <li>低運転音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>速暖性が高い</li> <li>足元を中心に暖める</li> <li>家事で動く際に邪魔にならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>速暖性が高い</li> <li>コンパクト(動きの邪魔にならない)</li> <li>持ち運びが容易</li> </ul>

オススメの暖房器具	リビング	寝室	キッチン	洗面所 / 脱衣所 / 玄関
青字の暖房器具は新築やリフォーム時に導入することをオススメ	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアコン</li> <li>エアコン + 電気カーペット</li> <li>エアコン + こたつ</li> <li>蓄熱式電気暖房器</li> <li>ヒートポンプ温水式床暖房</li> </ul> 足元が寒い場合は組み合わせで	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアコン</li> <li>パネルヒーター</li> <li>電気毛布・あんか</li> <li>ウィンドーラジエーター</li> </ul> タイマー機能も使用して省エネ & 快適に	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチン用電気カーペット(防水対応型)</li> <li>電気ストーブ(ファンヒーター)</li> <li>キッチン用床暖房</li> </ul> 足元を中心に暖房。家事の妨げにならない場所へ設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気ストーブ(ファンヒーター)</li> <li>遠赤外線(カーボン・ハロゲン)ヒーター</li> <li>脱衣室用暖房機</li> </ul> 持ち運びが容易な小型器具なら各場所の兼用として使用可。使用しない時はこまめにスイッチOFF

その場所の特徴(暖房の使用時間・暖めたい体の場所・空気の換気量 etc)に適した暖房器具を選び、スポット的に活用することで各場所間の温度差を解消することができます。特に高齢者同居家庭においては、ヒートショック対策としても有効です。